



しがらみを抜けて

永田円了

Break free

本来しがらみは、漢字で「柵」と書く。水流をせき止めるため川の中に杭を打ち並べて、それに木の枝や竹などを横に結びつけたものを言う。しがらみは、決してマイナスのイメージではなかった。いやむしろ人を救う役割を果たしていたのだ。それがいつの時代からか、ネガティブな言葉として使われるようになった。

温もりを求めてくっつき合う集団（第一のみち）、人生のスタートである。しかし、いったん自立心が芽生え、その集団はしがらみと化して、人の自由な行動を妨げる。

はやく粘っこい人間関係から抜け出したい。人が本来の力を発揮したいと思えば思うほど、今までの関係を断ちきって、新しい世界へと個の自由を求める（第二のみち）。しかしこの自由というみちは、個の能力は飛躍的に伸びるが、それまで抑えられていたエゴが大暴れし、勝ち組、負け組をつくり出す世界となる。



競争で疲れ果てた精神は、高次の自由世界を求める。自立した個が、個性を失うことなく、繋がって成長していく世界。サラダボールのように、個々の野菜がその持ち味を保ちながら共存し、深い味わいを創りだす世界（第三のみち）。この全員が主役の人生舞台は、果たして可能なのだろうか。

身分制度のしがらみを抜ける



大分中津藩下級武士だった福沢諭吉、身分制度のしがらみで悩む。「バカバカしい、こんなところに誰がいるもんか」、諭吉は藩のしがらみを出て江戸に向かう。オランダ語から英語習得に切り替え、渡米に成功する。渡米中一番驚いたことは、70年前の初代ワシントンの子孫が、今どうしているか、誰も知らないことだった。

欧米の進んだ社会に影響をうけた諭吉は、日本の教育改革に臨む。当時の儒学教育から、一人ひとりが思考する教育への変革。しかし根強い封建的教育制度のしがらみは、そうたやすく新しい制度を受け入れようとはしない。しかし諭吉は諦めない。目標がムチャだと分かったら、自分一人ですすめ！ スピードに勝るものなし、準備は5割でスタート。自らの資金を投じて土地を買い、塾校舎を建てる。慶應義塾の創立であった。

上下関係のしがらみを抜ける

帝京大ラグビー9連覇、この快挙の裏には、日本独特の上下関係のしがらみから解放された組織の有り様がみごとに表れている。脱体育会系、プレッシャーを楽しむ、という岩出雅之監督の哲学が、タテ中心の人間関係を、サラダボール型（第三のみち）に導いた。大学は4年間、しかしラグビーで培う知恵は、その後の人生にも役立つねばならない。

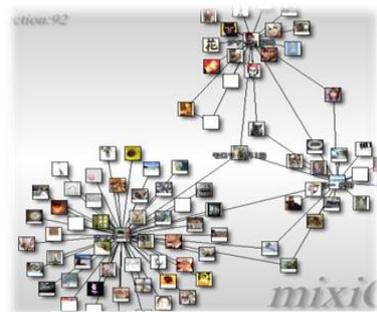
人生も一人ひとりがリーダー、自ら考えて行動、人生の幸せを自分で創る力は、卒業後の人生に必ずや必要なもの。10年がかりで、この岩出監督の哲学はラグビー部員一人ひとりに浸透したのだった。



<事例 DVD 等>

生物が群れる意味/ライオンとバッファロー/ギンガメアジ
 福沢諭吉/身分制度のしがらみを抜ける
 学問のすすめ/賢人と愚人の違いは、
 豆腐会社社長・鳥越 淳司/豆腐業界のしがらみを抜ける
 藤竜也/ファンとのしがらみをぬける/役者の役割は、
 映画「愛のコリーダ」/阿部定事件
 ミッツ・マングローブ/上手にオカマになれない
 2006年トリノ五輪/勝ち負けのしがらみを抜ける
 しがらみをジャンプさせる指導力/ワンボイス・チルドレンスクワイアー
 上下関係のしがらみをほどく脱体育会系/帝京大ラグビー9連覇
 歌・when you believe

円了のホームページ: www.enryo.jp



第三のみち：自立して繋がる